

# かえっこバザール運営 虎の巻

かえっこバザール（以下、「かえっこ」という。）については、かえっこ事務局ホームページ (<http://kaekko.exblog.jp>) をお読みください。

## 1)かえっこへの参加について

かえっこは、あくまでも、いらなくなったおもちゃを扱う「遊び」の場なので、

- ・参加できる人：「子ども」と「子どもの心を持った人（年齢不問）」
- ・参加する資格のない人：大人の価値観を押し付けようとする人

ということになります。したがって、かえっこを運営する大人スタッフも、大好きなおもちゃで遊んだ子どもの頃を思い出して、かえっこに関わってください。

※企業が主催するかえっこの中には、残念ながら「やっつけ仕事」感が漂う大人の社員スタッフも見受けられますので、事前にかえっこの趣旨をご理解願います。

## 2)会場運営について

### (1)運営スタッフの募集

かえっこの主役は、あくまで子ども達です。したがってかえっこ開催が決定したら、まず子供スタッフを募集してください。

学校や公民館などは比較的集まりやすいと思いますが、企業などは社員(スタッフ)のご家族に子供スタッフの募集を呼びかけましょう（社内報など有効活用！）。募集人数については、規模にもよりますが、多いことに越したことはありません。上手くローテーションを組んで、大人スタッフはサポートにまわりましょう。

事前に子供スタッフが募集できない場合は、かえっこ開催中に、ハローワークの窓口を開設し募集しましょう。

各コーナーごとの運営スタッフ数（目安）

スタッフ名 コーナー名	子供スタッフ (メイン)	大人スタッフ (サポート)	備 考
かえっこバンク	2人以上	2人以上	1つの窓口に2人配置
かえっこショップ	3人以上	1人以上	各ポイントコーナーに1人以上
かえっこレジ	1人以上	2人以上	ハローワークの窓口も兼務
かえっこオークション	1人以上	1人以上	手のすいたコーナーのスタッフが兼務してもよいし、ハローワークで募集してもOK
ワークショップ	1人以上	1人以上	ワークショップ数だけスタッフが必要

子供スタッフの募集に際しては、バイト代としてカエルポイント（かえっこにおける通貨）がもらえます。目安としては、10～15分間程度のお仕事3カエルポイントあげることになっていますが、がんばり具合によってはボーナスポイント（1～3カエルポイント）をあげましょう。

※当クラブで開催するかえっこでは、大人スタッフも希望があれば、バイト代としてカエルポイントがもらえます。半日で7ポイント、全日で14ポイントです。自分のかえっこカードをつかって、子ども達と同様にレジで清算してもらいます。

子ども達と同じコーナーを長い時間担当してもらうことは酷なので、バイト代をあげたら15～30分間程度の休憩（おもちゃの購入など）をとってもらい、また仕事をしてもらうように上手くローテーションを組みましょう。子供スタッフの休憩時は、大人スタッフが代わりにすることもよいでしょう。

※顔見知りの子供から、何の仕事もしないのに「ポイントちょうだい！」といわれることがあります。必ず何かお仕事をしてもらってからカエルポイントをあげてください。かえっこにおける通貨「カエルポイント」を大切に扱ってください。

## (2)かえっこバンクの運営

かえっこバンクは、子供スタッフの「バンクマン」が、いらなくなったおもちゃを査定し、おもちゃの価値に応じたカエルポイントを発行するコーナーです。

「カエルポイント」は「かえっこカード」にポイントの数だけの「カエルスタンプ」を押して発行されます。



※なお、かえっこカードはかえっこ事務局HPからダウンロード可能（無償）です。

おもちゃの査定をするのは子ども達ですが、性別や年齢、趣味など様々で、それぞれの価値観をちゃんと持っています。ですから、同じおもちゃでも異なるポイントをつけてよいのです。子供スタッフ同士で相談して査定してもかまいません。大人スタッフは、口を挟まずに温かく見守ってください。

査定基準は基本的に3段階です。止むを得ず大人スタッフが査定をする場合は、子ども目線をお願いします。

- そこそこのもの 1カエルポイント（カエルスタンプ1つ）
- まあまあのもの 2カエルポイント（カエルスタンプ2つ）
- なかなかいいもの 3カエルポイント（カエルスタンプ3つ）

受け付けるおもちゃは、原則「それぞれの開催者が決めてよい」ことになっています。本来、手作りのものや石ころに絵を書いたもの、壊れているものも子供スタッフの判断にまかせることになっています。当くらぶでも長年そのように運営してきましたが、管理上いろいろと問題が生じてきましたので、

- ・壊れたおもちゃ、パーツが足りないおもちゃ
- ・汚れているおもちゃ（特に、ぬいぐるみ）
- ・対戦カードゲーム類

は現在受け付けをお断りしています。しかし、以下のものについても受け付けOKです。

- ・文具類 ※開発途上国の子供達に送ります。
- ・書籍類 ※絵本や実用書に限ります。DVD・CDなどもOKです。
- ・日用品 ※おもちゃとして使えそうなものに限ります。  
※ガラス・陶磁器は破損せぬよう措置をとってからショップに出します。

バンクでは、その場のやり取りを楽しむ雰囲気大切です。持ち込まれたおもちゃは、ひとつずつ「これは1ポイント、これは3ポイント・・・」とゆっくり対話を楽しみながら査定をすすめていきましょう。

ただし、バンクにお客さんの行列ができてきたら、2人がペアになって、一人はおもちゃを査定し、もう一人はカエルスタンプを押すというように作業分担するとペースがあがります。

またほとんどのおもちゃが「そこそこのもの」としても、新品同様のおもちゃや人気キャラクターのグッズなどがあれば「おまけ」で「まあまあのもの」と査定してもよいでしょう。

セットもののおもちゃはパーツが揃っているかどうか？、電池で動くおもちゃはちゃんと動くかどうか？確認してから査定するよう心掛けましょう。「完品」や「動作確認済」などのシールを貼りましょう。

バンクマンの子どもが「すご〜い」と思ったおもちゃには、感動ポイントをつけることができます。感動ポイント（3ポイント以上）は、子どもが感動して思わず手が動いた分だけのポイントで、決して数を数えてはいけません。

大人スタッフの場合、5ポイントとか10ポイントという査定が多いです。

感動ポイントで査定されたおもちゃは、「オークション品」陳列コーナーに並べます。手の空いているショップ店員に声をかけて陳列してもらいましょう。

### (3)かえっこショップの運営

かえっこショップは、かえっこで集まったおもちゃをカエルポイントの値段で販売するコーナーです。



ショップに並んでいる商品の値段は次の3段階です。

- 赤色シート上の商品は1カエルポイント  
(カエルスタンプ1つ)
- 黄色シート上の商品は2カエルポイント  
(カエルスタンプ2つ)
- 青色シート上の商品は3カエルポイント  
(カエルスタンプ3つ)

「ショップ店員」の主なお仕事は、次のとおりです。

- ・各ポイントコーナーのおもちゃが混じらないように気を配ります。おもちゃがシートからあふれそうになったら、中の方へ寄せてください。
- ・バンクで買い取ったおもちゃをポイントごとに各ショップコーナーに運びます。バックヤードの広さは限られているので、迅速に買い取ったおもちゃをショップに運ばないとバンクコーナーがストップします。
- ・オークション品がでたら、バンクからオークション陳列コーナーに運びます。
- ・壊れたおもちゃや部品が一部なくなったものがみつかったら、所定の容器（※後述）に集めます。

会場スペースが広い場合は、次の4つのカテゴリーにわけて展示するとよいでしょう。

- ①ぬいぐるみ、ビニール人形などのソフト素材系
  - ・子どもが上に載ってもケガしないもの
  - ・固いおもちゃと混在させないように注意すること
  - ・場所をとるので広めの場所に大きく拡げて展示すること
- ②キーホルダーや小さめのプラスチック・金属製おもちゃ類
  - ・大きめのおもちゃと一緒にすると埋もれてしまったり、転がったりして危ないものなどは、かご類に入れて展示すること
  - ・特にミニカーなどは専用コンテナに集めること
- ③転がらない大・中サイズ系のおもちゃ
  - ・子どもが手に取りやすい高さのテーブルや、小部屋がある場合は専用コーナーにするとかして、手に取りやすく見やすい状態で拡げて展示すること
  - ・子どもがテーブルの上ののったりしないように手の届く幅で拡げること
- ④絵本、ノート、DVD、CD、ビデオ類の四角い系
  - ・どちらかという保護者の方に人気がありますが、たまに子ども達がくつろいで本を読んだりしているので、大きなソファがあるところや、じゅーたんの上、窓際や木陰など、気持ちのよい空間を作ること
  - ・上映できるモニターなどがあれば、そこでお試し上映など行うこと

このほか、人気キャラクターだけを集めて展示する「セレクトショップ」の設置もなかなか面白いです。

#### (4)かえっこレジの運営

かえっこレジは、ショップで選んだおもちゃをカエルポイント（かえっこの通貨）で清算するコーナーです。

レジ係は、かえっこカードのカエルポイントをおもちゃの値段の分だけ、黒のボールペンかマジックでスタンプ部分に斜線を入れるなどして消します。



ボールペンで2ポイント消します

レジコーナーでもバンク同様、お客様とのやり取りを楽しみましょう。

自己申告してもらったおもちゃの値段の聞いて、その合計ポイントを消すのですが、「コレ、3ポイントだけど、ちょっと高いかも・・・」と思ったら、「2ポイントにするね!」とレジ係が査定しなおしてもOKです。

たまに持っているポイントより多く、買いたいおもちゃを持ってくるお客様がいます。その場合、お勧めのワークショップを教えたり、ハローワークを紹介しましょう。またオークション品の意味がわからずレジに持って来る子どももいます。レジ係は、オークション品について優しく分かりやすく説明して、オークション品を戻してください。

ワークショップやハローワークに参加できないお客様には、残念ですが、オーバーしたポイント分のおもちゃをあきらめてもらいます。何もしないでおもちゃは手に入りません。

規模の大きなかえっこでは、かえっこの入口であるバンクコーナーにハローワークを設置することが多いのですが、レジコーナーに併設してもOKです。



ハローワークでは、主に

- バンクマン
- ショップ店員
- レジ係

の追加募集を行います。かえっこは子ども達の様々な自主的な活動を生み出すワークショップです。したがって、子ども達が具体的にコレをしたいというものがあれば、大人スタッフは実現のためのサポートをしてください。

例えば、「マクドナルドの景品おもちゃが多いから集めてみたい」ということであれば、何人かの子ども達を募って景品おもちゃを集めます。次に、集めた景品おもちゃをどうするか考えてもらい、セレクトショップを開店して売りたいということになれば、さらにお仕事を進めてもらいます。

## (5) かえっこオークションの運営

かえっこオークションは、かえっこバンクで感動ポイントがついたおもちゃを、欲しいと思う子ども達が競りあう場です。



オークションコーナーには、子ども達にとって魅力的なおもちゃが並びます。そのため、オークション品の意味がわからずレジに持って行こうとする子どもがいますが、見張りのスタッフをおくことはありません。バンクの近くに設置したりして、大人スタッフが気を配ることにより対応しましょう。

オークション品は、それが「完品」なのかどうか特に気になるものなので、子ども達がさわっている時は「さわらないで！」とは言わず、スタッフと一緒に動作やパーツの確認をしましょう。

オークションの開催時間は、あらかじめ告知します。お勧めの時間は、

- ①昼食に入る 30 分前くらい
- ②イベント終了の 30 分前くらい

です。かえっこは通常午後 2 時間程度の開催が多いのですが、全日開催であれば午前・午後各 1 回はオークションを開催しましょう。

オークション開催時間が近づいたら会場アナウンスしてもらいましょう。開催時間は厳守です。少しでも早く始めるとクレームが出ますので注意してください。

オークションは本来、高値をつけた人が欲しいおもちゃを落札するという単純なルールですが、数百ポイントも持っている子ども達がいると、落札者が限られるようになります。そこで、当くらぶではローカルルールを採用しています。

- ① 2人以上が競り合って、あまりにも高いポイントまで上がると、オークション系の判断で競り合いを止めて、買取りポイントを決めます。
- ② 買取りポイントを持っている子ども達は、オークション係とジャンケンをします。ジャンケンに参加できるのは子ども達ですが、乳幼児の場合は例外的に保護者の方も参加できます。
- ③ オークション係に勝った子どもだけが、そのおもちゃを買取りポイントで買うことができます。オークション係と「あいこ」でも「負け」とみなします。一人の子どもが決まるまでジャンケンを繰り返します。
- ④ 1回のオークションで一人の子どもが手に入れられるおもちゃは1つだけです。一家族では、子どもの数だけ手に入れることができます。
- ⑤ 落札した子どもには、オークションコーナーからレジコーナーに移動してもらい、おもちゃの清算をしてもらいます。

オークションを仕切る係は大人スタッフですが、ジャンケンをするオークション係は子供スタッフにしてもらいましょう。

※子供スタッフの中にはオークションに参加したい人がいますので、あらかじめ参加の意向を聞いて、希望があればバイト代を前払いしてください。オークションの開催で子供スタッフがいなくなった各コーナーやワークショップは、大人スタッフが対応してください。イベント終了前のオークションの場合は、ワークショップを早めに閉店してもよいでしょう。





## (6)ワークショップの運営

ワークショップは、主に

- ①通りすがりでおもちゃを持ってきていない子ども達
  - ②欲しいおもちゃが多くて手持ちのカエルポイントが足りない子ども達
- を対象に、いろいろな作業や遊び、スタンプラリーなどを体験してもらうコーナーです。

ワークショップを体験することでカエルポイントをもらうことができます。もらえるポイントは1～3ポイントを基本とします。

各ワークショップに「カエルスタンプ」を置くことになると管理上問題があるので、通常「カエルポイント引換券」を渡し、それをイベント開催中に必ずバンクに持参してもらい、かえっこカードにスタンプを押してもらうという方法をとります。

当くらぶが作成・使用しているカエルポイント引換券 (※名刺サイズです)			かえっこ事務局HPからダウンロード可能な「交換銀行券」
			

カエルポイント引換券は、どんどんバンクに集まってきますので、各ワークショップ担当のスタッフは、引換券が不足しないよう注意してください。

ワークショップは、簡単な工作、ゲームコーナーや地域のおもしろい人を呼んできて何かを教えるコーナー、さらに子どものアイデアなどで即席のワークショップを当日増設することもできます。

また、イベント会場などでは、所定のブースを回ったり、体験をするなどカエルスタンプ引換券がもらえるようにすると、回遊性が増す効果があります。

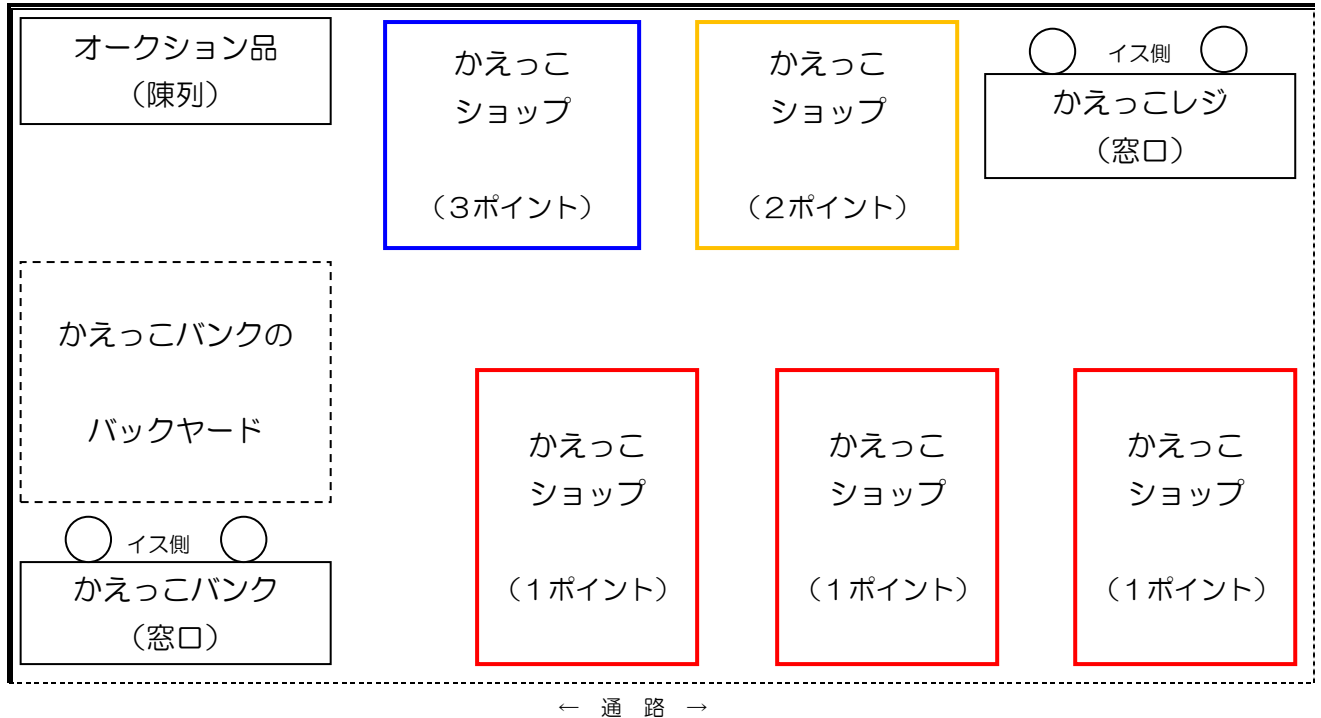
当くらぶでは、「遊び」のワークショップの備品をいくつか用意しています。詳しくは別紙をご参照ください。

### 3)会場設営について

かえっこを開催する会場スペースは様々です。街中のお店も参考に、そのスペースにあったレイアウトを考えましょう。

全体レイアウトの一例（狭い場合）

壁・仕切



全体レイアウトの要点としては、

- ①動線を考えて、各コーナーやスペース内通路を配置・確保すること。
- ②バンクの後ろには、買い取ったおもちゃの仕分けなどができるよう十分なスペース（バックヤード）を確保すること。スタッフの荷物もここに置きます。
- ③かえっこショップのポイント別売り場面積の割合は、大体  
1ポイント：2ポイント：3ポイント = 3：1：1
- ④オークション品は、かえっこバンク・レジの近くで、なるべく奥のスペースで陳列すること。

※オークション品の意味を理解できない子どもがレジに持って来ることがありますので、レジ担当の大人スタッフは時々オークション品の確認をお願いします。

※都合によりオークションを開催できない場合は、オークション相当品を5ポイントと表示して、オークション品のところに陳列してもよいと思います。